22号
北海道がんセンターたより
平成18年1月発行
独立行政法人国立病院機構　北海道がんセンター
〒003-0804　札幌市白石区菊水4条2丁目3-54　TEL 011-811-9111
ホームページ　http://www.sap-cc.org
編集発行人:山下 幸紀

北海道がんセンターの理念

私たちは、国民の健康で幸福な生活のため、最新の知識と医療技術をもとに、良質で信頼ある医療の提供に努め、特に「がん克服」に寄与することを目指します。　このため、

- 常に、医療の質と技術の向上を目指します。
- 研究、教育研修を推進し、医療・医学の発展に寄与します。
- 患者さんの権利を尊重し、誠実な医療を実践します。
- 自主自律、創意工夫の精神で病院運営に当たります。

2006年外科トピックス

外科医長　濱田　朋倫

がんは日本人の最大の死亡原因になっており、３人に１人はがんで死ぬという時代になってきています。その中でも食道がん、胃がん、大腸がん、肝臓、胆嚢、膵臓がんといった消化器がんの占める割合は最も高いといえるでしょう。

近年、新しい抗がん剤や治療法が開発され、治療方法の選択肢は増えました。しかし、いまだ手術（切除療法）を凌駕するほどの治療方法はありません。

手術というと、「恐ろしい」、「痛い」、「苦しい」といった印象を持たれるかと思いますが、医学の進歩に伴い腹部手術においても患者さまの精神的、肉体的かつ経済的な負担をできるだけ軽減しようと日々変化しています。

まずこの10年間で最も大きな変化といえば、患者さまへのがん告知(インフォームド・コンセント)です。これは決してがんであることを患者さまに一方的に告げて、ショックを与えるというものではありません。街灯も灯っていない真っ暗な夜道を一人で歩いていくのは不安で仕方ないものですが、遠くに一つでも明かりがともっていればそれを頼りに歩いていけるものです。あなたの体の中がどの様な状態になっていて何故治療が必要なのか、どの治療法が最善なのか、手術後の経過では何に気を付けていかなければならないのか、といったことを御本人が納得して頂くまで、十分な時間をかけて説明します。

治療方法の決定には、がん再発の可能性ができるだけ少ない方法が優先されるのは当然ですが、すべて医師に任せっきりではなく、共に考え理解していくことが不可欠であり、患者さまの精神的負担を軽減するためにも最善なのです。

一方手術では、がんの進行度（がんの拡がり）に応じた治療が行われるようになってきています。早期がんではお腹を切らずに内視鏡で切除可能な場合や、開腹するにしても腹腔鏡というカメラを用いて小さな傷で対処できる場合もあります。このようなケースでは患者さまの負担を軽くすることが可能ですが、逆に進行がんの一部には、手術だけでは済まず抗がん剤を併用しなければならないケースもあります。

また手術後の処置等の変化では、毎日の傷の消毒とガーゼ交換、胃管の留置（術後数日間鼻腔を通して胃の中に細いチューブを留置していた）や抗生剤の長期投与（乱用）が、（これらは数十年間日本の医療現場で行われてきたことですが）最近では行われなくなりました。また胃や大腸がんの手術では、術翌日から水分を摂取し早期に食事を始めても大丈夫なことがわかってきました（つい最近まで胃や腸のつなぎ目に無理がかかるからと、手術後1週間絶食でした）。これら一つ一つは小さな変化ですが、入院期間の短縮にも繋がり、患者さんの肉体的、経済的な負担軽減にも大きく貢献しているといっていいでしょう。

Contents もくじ

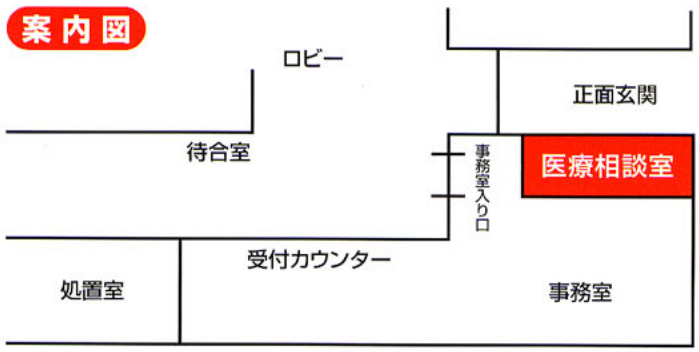
2006年外科トピックス ……… 外科医長　濱田　明倫 ……… 1
「医療相談室」のお話 ……… 企画課専門職　豊島　洋 ……… 2
禁煙外来のお知らせ ……… 地域医療連携係長　太田　紀彦 ……… 2
第5回治験に関する公開講座「よいお薬をより早く患者さまのもとへ～治験とがん治療～」の開催を終えて ……… 北海道がんセンター　治験管理センター ……… 3
総合案内をご存知ですか？ ……… 副看護部長　田中　恵子 ……… 3
クリスマス会を終えて ……… 小児科乳腺外科病棟　樋口ゆかり ……… 4

「医療相談室」のお話

企画課専門職　豊島　洋

平成15年の春に「医療相談室」を今の１階事務室（旧医事課）に設置しました。それまでは独立した相談室はありませんでしたので患者さんがこられた場合は担当者の席でお話を伺ったり、休憩室やロビーの片隅を使用しておりました。これではプライバシーが守れず、患者さんは込み入った相談をするにも躊躇するような状況でした。現在の「医療相談室」は事務室の一角を占めていたカルテ棚を撤去し、間仕切りをして一つの独立した部屋として作られています。

「医療相談室」は毎日何らかの形で使用しています。医療費に関する相談や国民健康保険に係る委任払い手続きなどが多く、ほかには患者さんの意見などを伺う場合もこの相談室を使用しています。どんな些細なことでも結構ですので、聞いてみたい・確認してみたいなどと思われたら是非気軽においで下さい。１階事務室を入ってすぐの場所です。受付カウンターに申し出ていただくか、事務室を開けて声をかけて下さいますと係りの者が対応いたします。



禁煙外来のお知らせ

地域医療連携係長　太田　紀彦

タバコには数多くの有害な物質が含まれており肺がんをはじめとする様々な疾患の原因となります。また、タバコは吸っている本人だけではなくタバコを吸わない周囲の人々の健康をも蝕みます。

当院ではタバコをなかなかやめられない方の相談、ニコチン貼付剤（院外処方）を使用した禁煙の指導を行っています。

実 施 日　毎週水曜日
実施場所　当院循環器外来
時　　間　13時30分から15時まで（お一人約30分程度）
対 象 者　当面の間外来患者さまのみとさせていただきます。

料金は全額自己負担となります。

ニコチン貼付剤を使用した場合で患者さまの自己負担は２ヵ月程度の治療 期間でおよそ３万円くらいとなります。

完全予約制となっておりますのでお申込みは１階、受付カウンターまで。

お電話でのお申し込み先　　011-811-9117（医療連携室直通です。）

北海道がんセンター　治験管理センター

第5回治験に関する公開講座
「よいお薬をより早く患者さまのもとへ～治験とがん治療～」の開催を終えて

平成17年11月12日〔土〕、北海道がんセンターと治験推進協議会の共催で、第５回「治験に関する公開講座」が開催されました。当日は約100名の一般市民の方々の参加があり、山下幸紀病院長の挨拶のあと、治験コーディネーター、法律家、医師の４人の講師により、「治験ってなあに？」「治験に安心して参加できるために～被験者保護の立場から～」「治験とがん治療～乳がん治療～」「治験とがん治療～放射線治療～」と題して、治験に携わるそれぞれの立場からの講演が行われました。講演後は活発な質疑応答がなされ、治験への関心の高さが伺われました。

アンケートの結果についてご紹介します。

年代は20代～70代まで幅広い年齢層の参加がありました。「公開講座の開催をどこで知りましたか」という問いには、新聞と答えた方が１番多く、次いで院内ポスター、知人などでした。また、「公開講座に参加する前から治験について知っていたという方は何でお知りになりましたか」という問いには、新聞・テレビ等でと答えた方が多く、メディアからの情報が多いことがわかりました。昨今新聞で治験薬の広告が多く掲載されるようになり、社会的関心が高まっているからではないかと考えられます。「公開講座に参加された後、治験に対してどのようなイメージを持ちましたか」という問いには「良いお薬を開発するために必要なもの」と答えた方が大半でしたが、今回のアンケートでは「できる限り協力したい気持ちになりました」という貴重なご意見もいただきました。

今回で第５回目の開催を終え、一般市民の方々の「治験」への関心が高まる中、さらに今後は一歩進んだ内容で「治験に関する公開講座」を実施していきたいと考えています。

総合案内をご存知ですか？

副看護部長　田中　恵子

当院の正面入り口を入ると、総合案内のプレートがあることをご存知ですか？

総合案内には毎日看護師がいて、患者さまやご家族のお手伝いをさせていただいています。

主な仕事は、何科を受診したらよいか分からない方の相談や、紹介状をお持ちの初診患者さまの手続き方法の説明などをしております。その他、再来機の使用方法の説明、検査部門のご案内、院外処方の案内、曜日毎の診療科別担当医師のお知らせ、移動介助など外来ボランティアとともに患者さまの疑問にお応えしお手伝いをさせていただいております。

セカンドオピニオン外来や医療相談のご案内もしておりますので、何か困ったことがありましたら総合案内の看護師にお気軽に声をかけてください。

総合案内は外来受付時間に限られておりますので、その他の時間帯はお近くの職員に遠慮なく声をかけてください。

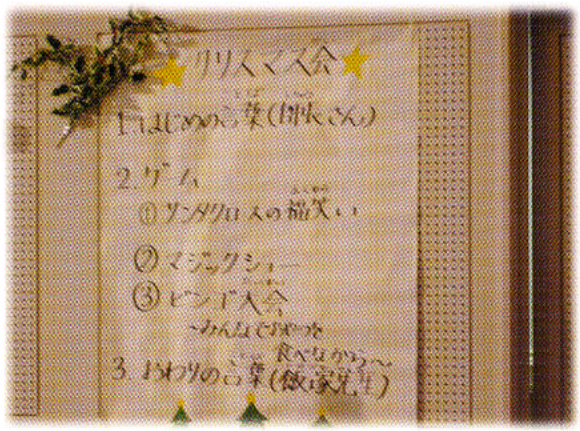
クリスマス会を終えて

小児科乳腺外科病棟　樋口　ゆかり

2005年12月15日、小児科病棟の子供達に少し早いクリスマスがやって来ました。毎年、この時期になると病棟は様々な飾りでデコレーションされ、クリスマス一色となり、気分は最高潮!!あとはサンタクロースの到着とプレゼントを待つばかりです。

会場となった大講堂には、小児科の患者さまとそのお母さま、乳腺外科の入院患者さまも集まり、あちらこちらから歓声があがっていました。まず、目隠しをした子供達が"福笑い"に挑戦しました。看護師のアドバイスのもと、出来上がった顔はそれぞれに個性的で、会場の笑いを誘っていました。

そして、次は田中先生のマジックショーです。一生懸命練習した甲斐あってか、みんなが温かく見守る中、無事成功（!?）１歳前後の患者さまとお母さま達には大評判だったようです。

さぁ、そして何といってもこの日のメインイベントはプレゼントを手にしたサンタクロースの登場です。"あわてんぼうのサンタクロース"のＢＧＭに乗って、窓から突然入ってきたサンタクロースがステージの前に立ち、患者さま達一人一人の名前を呼んでプレゼントを手渡していました。中学生や高校生の患者さまも名前を呼ばれると照れくさそうにサンタクロースに近づいてプレゼントを受け取っていました。途中、名前を呼び間違えたり、呼び忘れたり、ちょっとあわてんぼうなサンタクロースでしたが、患者さま達にとって忘れられない日になったのではないかと思います。

"サンタさん、ありがとう！今年も子供達に夢を運んできてくださいね。
メリークリスマス!!"